

## 1. はじめに

現在、植栽委員会では上川委員長のもと、本年度から「長期植栽管理計画」の概要について検討中です。この度、シーアイハイツ住民の皆様にはまずは植栽の現状について知っていただきたいとの思いで掲載させていただきました。今回の記事は初回ですので導入として過去の経緯と現状の問題点について触れたいと思います。今後、数回にわたり投稿させていただき予定ですのでお付き合いください。

## 2. シーアイハイツの植栽管理のあゆみ

――先人の努力を知るにつけ

納得し感心する！――

シーアイハイツの樹木は建設当初は中幼木だったものが築約30年経ったH20年頃には緑豊かになるプラス面の一方、高木化・過密化して日照障害、落枝、駐車場の鳥フン害、樹液被害等のマイナス面も大きくなってきました。また、植栽に関する植栽管理費も少しずつ膨らんできました。そこで、このまま過去の延長線上で推移させると必ず将来マイナス面が増大して大変なことになるとの危機感に立って、H22～H27年の6年間を律する「中期植栽管理計画」が立ち上がりました。一部の「緑を豊かにする」ことを大事にされる考えの住民の方々の意見もあり、紆余曲折を経て大胆に実行されました。その成果として高木（樹高3m以上）は470本伐採し、1,277本の37%削減されマイナス面は未だゼロではありませんが、全体としてシーアイの資産価値を維持する上でかなりの成果があったものと思われます。なお、計画はその後H28～H30年にスケールダウン計画としてフォローアップされました。また、H30年には長期修繕計画特別委員会から「団地植栽のあり方」として理事会に答申がなされ、今年度、団地業務計画の重点課題（全般）の1つとしてそ

の検討が示されています。

## 3. 現状の問題点と対策の方向性

――過去と同様の問題認識と

長期計画の必要性！――

約10年前に当時の問題認識から出発して「中期植栽管理計画」を立ち上げ実行し一定の成果を得ましたが、その10年後の現在も同様の問題認識に立っています。その原因と対策の方向性をまとめてみますと

- (1) 一度の改革（中期計画）だけでは不十分であり、最近の温暖化の影響もあり高木化したものはその枝葉を多量に繁茂させマイナス面を助長させている。
- (2) 植栽委員は2年周期で交代しているので、過去の経緯を理解し将来のことを検討するには体制的に十分ではない。
- (3) 毎年度植栽管理計画を作成して実行しているが、その作成準拠となるものが明確に存在しない。（契約部外会社が、過去のデータ等を参考にし、実際の樹木の状態を確認して計画（案）を作成し、委員会で審議して作成）

→将来の植栽の絵姿と管理方法を具体的に示した年度計画の準拠となるべき長期的な植栽管理計画が求められています。

